

専攻建築士紹介



構造計画研究所

観音 克平

〔まちづくり専攻〕

〔設計専攻〕

歴史に学ぶ明日のまちづくり

どのような分野の建築であっても、その設計に携わる者には、建築を育んできた自然と人間に対する謙虚な姿勢が求められます。とくに、まちづくりの目的で、自然環境や既成の街並みに手を加える場合（点であれ、面であれ）、その行為の全体に及ぼす影響を、多方面からの綿密な調査に基づき、客観的にシミュレーションし、住民、関係者、有識者で検討を加え、設計にフィードバックするというプロセスを経なければなりません。住みよいまちづくりにはコンセンサスが不可欠です。

景観法の制定はいささか遅きに失した感がありますが、まちづくりは、本来、一方的に、トップダウンで行われるものではなく、草の根的に、住民レベルで成就されるものです。これが行政的な色彩の強い都市計画と大きく異なるところです。まちづくりを成功させるためには、関係者すべてが、平常から、まちや建築を取り巻く風土と文化に対する深い理解と敬愛の念を持つことが肝要です。ちなみに、難題ですが、この背景として義務教育の教養科目に「建築」（まちづくり・いえづくり）を加えるなど、幼少からまちや建築を身近に学ぶ環境を整えることにより、一般のまちや建築への理解を深めれば、共感・支援の底辺が拡大し、まちづくりがスムーズに進展するに違いありません。

魅力的なまちづくりに、設計者の美意識やデザイン力は欠かせませんが、その進取の気象は、いわば、両刃の剣で、ともすれば全体の調和より個の傑出、つまり、協調性より独自性（独善性？）、伝統性より創造性（新奇性？）を優先してしまうという「業」を内包しています。この「デザイナーの性向」（ままだ「放縦」に陥りがちな）も、上述の素養の上に、対象の固有の風土と歴史を謙虚に捉えることで、徳化され、設計においても、素直に個の魅力と同時に全体の調和が尊重され、むしろ、美しいまちづくり推進の原動力になります。ここにこそ、建築家がまちづくりに関わる本来の大きな意義があると思います。

筆者は、地域に密着した郵便局の設計や、景観保全の一環としての歴史的建築の保存再生を通じてまちづくりに長く関わってきました。この経験を生かし、現在、居住地東京を活動の拠点として、NPO「江戸・東京のまちづくり歴史研究会」や「歴史・文化まちづくり研究会」に参画し、江戸の歴史を学ぶことにより、今日の東京の問題点を探り、明日の東京のまちづくりを提言することをめざしています。いっしょに活動していただける仲間を募ります。